

# 地域の課題 研究者も考えます

14

## 宝を生かす計画



県総合博物館 北村淳一学芸員

### 環境変わり、固有種が絶滅危機

松阪市や明和、多気町を流れる櫛田川水系の下流域の堤防の内側には、環境省指定の日本の重要湿地五百の一つ「祓川」や、古代に造られた条里制で素掘りの水田や近年環境配慮型で整備された水田、ため池など、比較的に自然度の高い多様な湿地環境が残り、今でも県固有の淡水魚類や、淡水二枚貝類の種の多様性が高い貴重な場所になっている。

二〇一四年に開館した県総合博物館では、この地域の多様な湿地環境とそれを生かした文化について、地域住民や研究者とともに標本や資料、記録を収集し調査研究して価値を探っている。またその成果は、標本や資料とともに博物館で常設展示したり、移動展示として現地の文化施設で公開したりするなど、地域や



斎宮小児童が参加した祓川での環境学習風景＝明和町で

## 生物多様性 価値知り活用を

県民・利用者の皆さんに還元してきた。情報の発信には、小学校の環境学習や報告会、環境保全のシンポジウム、論文、書籍などさまざまな方法を活用している。

しかしながら、価値を探ると同時に、課題も明らかとなった。塩素等を含む排水や、特定外来生物の淡水魚コクチバスやオオクチバスなどの侵入による捕食、湿地と人の関わり方の変化などにより、これらの種は減少し絶滅の危機に直面している。

これらの博物館を含めたさまざまな調査活動によって、人々が自分の住んでいる地域や郷土について価値を知り、好きになり、誇りをもち、そして、より良くしようと思っただけだったら幸いである。そして、そのような思いをもつ地域住民や行政、研究者、企業、愛好家などの人々が集い、価値を大切にして地域づくりする活気ある社会と生物多様性の豊かな国土になってほしいと願っている。

名古屋大学持続的共発展教育研究センター